

全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	15-B10 教育の基礎		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	教育と社会	教育と文化	
対象学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	前原 由喜夫	責任部局	教育学部
趣旨	<p>今までもそしてこれからも、みなさんは「教育」と何らかの形で関わりを持っています。しかしながら、「教育」とはそもそも何なのか、わたしたちはどのような仕組みの中で教育を受けているのか、考えたことがあるという人は少ないのではないのでしょうか。</p> <p>必修科目であるモジュール I では、教育の理念や歴史・行政と制度・教育課程にある児童生徒の心理等について学びます。そしてモジュール II では、文学と社会・自然科学・芸術・環境・教育相談から自身の興味に応じて選択し、各分野について教育現場(学校や地域社会)との関わりから学んでゆきます。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>教員免許の取得を考えている方はもちろんですが、広く「教育」に関心のある方を歓迎します。教育そのものや、諸分野と教育との関わりについて深く考えたり、他の学生たちと議論を交わしたりしてみたいという方はぜひ受講してください。</p>		

科目名	担当者名	概要	キーワード
教育原理	関谷 融	教育(学)の基本概念について講義を行う。また、具体的で身近な事象や歴史的な事象をもとに、現代の教育問題の枠組について講義を行う。	基本概念の有効範囲, 子ども, 成長, 理解, 能力
教育心理	前原 由喜夫	学校教育における子どもの心の理解に必要な心理学の基礎事項を講義する。具体的には、児童・生徒の学習の認知的過程、意欲と動機づけ、心身の発達に関して実証研究にもとづいた知見や理論の概要を学ぶ。	教育, 記憶, 知能, 発達, 社会性
教育行政・制度論	楠山 研	教育行政・制度の意味を理解するとともに、具体的で身近なテーマをもとに、そのあり方について検討できる。また国際比較や歴史などの視点も加えて、現在の日本の教育行政・制度の特徴について多角的に考察できる。	教育と社会のつながり, 取捨選択, 国際比較

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
自主的探究	○	○	◎							◎		◎	◎	◎	◎	
自己成長志向		◎	◎							◎	◎	◎		◎	◎	◎
批判的思考			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎
相互啓発志向				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎
自己表現					◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎
行動力					◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎
社会貢献意欲						◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎
日本語力							◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎
英語力								◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎
基盤的知識									◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎
環境の意義										◎	◎	◎		◎	◎	◎
多様性の意義											◎	◎		◎	◎	◎
人文科学の内容を取り扱う													◎	◎	◎	◎
社会科学の内容を取り扱う													◎	◎	◎	◎
現代的な話題を取り入れる													◎	◎	◎	◎
アクティブ・ラーニングの活用													◎	◎	◎	◎
◎(特に重視)の数	1	1	3	1	1	0	2	0	0	2	0	1	1	3	2	1
○(重視)の数	2	1	0	0	0	2	1	3	1	1	1	2	0	0	1	1

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	15-B11 現代の教養		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	芸術と文化	自然と暮らし	
対象学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	赤羽 良一	責任部局	教育学部
趣旨	<p>21 世紀のグローバル社会を生きる人々には、たんに自己の専門分野の知識を深めるだけではなく、ひろく人文・社会科学や自然科学に関係する基礎知識や研究方法を身につけ、さらに、芸術を理解・表現できるような、真の意味での教養人であることが要求されます。</p> <p>本モジュールでは、モジュール I の各科目で人文科学・社会科学・自然科学の基礎知識や研究方法、芸術の理解・表現方法を修得したのち、各自の関心に応じて、それぞれの分野でより深い知識や研究態度を身につけることができるように、モジュール II の科目を選択できるようになっています。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	特定の知識や観点到に偏らず、ものごとに対する広範な知識とそれを考察するための多面的な研究態度を身につけ、現代を生きる教養人をめざしてください。		

科目名	担当者名	概要	キーワード
文化と社会	勝俣 隆 飯塚 知敬 福留 真紀	人文科学・社会科学の両面から、人間の生活と文化に関する諸問題を考察する。	文学、 哲学・倫理学 日本史
自然の科学	赤羽 良一	「フリーラジカル」の化学および「酸素」の化学についてその基礎を学びながら、物質・生命・環境について考える。	物質、フリーラジカル、 酸素、環境と生命
芸術の世界	牧野 一穂	現代人の教養として、芸術を理解・表現するための基礎を学ぶ。	音楽史 美術史

全学モジュールの 目標および授業編 成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
文化と社会	◎	◎	◎	○	○	○	◎	○		◎	○	◎	◎	◎	◎	
自然の科学	◎		◎		○			◎	◎	◎	○				○	○
芸術の世界	◎	◎	○		◎	○	○	○		◎			◎	○	○	
◎(特に重視)の数	3	2	2	0	1	0	1	1	1	3	0	1	2	1	1	0
○(重視)の数	0	0	1	1	2	2	1	2	0	0	2	0	0	1	2	1

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	15-B12 環境問題と環境政策		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	人間活動と環境影響	海洋環境における生命と物質の多様性	
対象学部	医学部・歯学部・工学部		
テーマ責任者	高尾 雄二	責任部局	環境科学部
趣旨	これからの社会の長期的将来像を考える時、環境問題からの視点が必要不可欠です。本モジュールでは、人類が直面するいくつかの環境問題を理解し、様々な視点や立場からその解決策について探ることのできる素養および思考力を養うことを目的・教育目標とします。		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>巨大な地球ですが、化石燃料の大量消費や化学物質の放出、乱獲や森林破壊など、"持続"という視点から見ると、取り返しのつかない領域に踏み込んでいます。皆さんが今後、社会の一員として数年先(就職や進路)、数十年先(家族のこと、将来の生活)、百年先(子孫の生活、国家の存続)を考えるとき、環境の視点からの予測も必要不可欠な時代となりました。このモジュールでは、環境問題の中から、地球温暖化と水環境について地域～国際的におよぶ視点と科学的視点において学び、環境政策と法について見識を広めます。</p> <p>本モジュールでは、講義は知識の押しつけ型ではなく、講義レベルを平易にし、学生の皆さんには自ら考える機会、そしてそれを文章にする機会、さらに人に伝える機会を増やそうと考えています。</p> <p>アクティブラーニングを行いますので、宿題、発表や討論に伴う班行動や教室内移動などがあります。</p>		

科目名	担当者名	概要	キーワード
地球温暖化を考える	高尾 雄二 河本 和明 富塚 明 和達 容子	温室効果のしくみを学び、それに伴う気象および気候の変化を学ぶ。また、関連する国際条約の成立過程や内容について学び、国家間の立場の違いや国際社会への影響について考える。さらに、化石燃料の燃焼に伴い発生する大気汚染やエネルギー問題の現状を学ぶ。これらによって、地球温暖化の防止が技術的かつ国際的に複雑な問題であることを理解し、改善のための手法を提案し、予想される困難を考える。	温室効果, 地球温暖化, エネルギー収支, 化石燃料, 各国の立場
水環境を考える	長江 真樹 仲山 英樹	上水と下水に関連した種々の水処理技術について学ぶ。また、水に関連した種々の環境問題の現状を理解する。また、植物などを使った水質浄化の実例を学ぶとともに、人の生活が水辺の生き物に与える影響についても学ぶ。そして、水を中心に人を含めてさまざまな生き物が多様で密接な関わりを持つことを考える。	上水, 下水, 水処理技術, 水辺の動植物
環境政策を考える	西久保 裕彦 黒田 暁	地球環境問題などを解決し持続可能な社会を実現するための政策および法の現状を、国内および国際的視点から、事例を交えて学び、問題点などを考える。また、様々な問題解決のアプローチについて、それぞれの立場で考え、表現することを通じて、問題解決能力の素養を養う。	環境法, 環境政策 環境自治のしくみ,

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブラーニングの活用	
地球温暖化を考える	○	○	○	○	○		○		○	◎			◎	◎	◎	
水環境を考える	○	○	○		○	○	○		○	◎	○		○	◎	◎	
環境政策を考える	○	○	○	○	○		○	○	○	◎			○	◎	◎	
◎(特に重視)の数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	2	3	3	
○(重視)の数	3	3	3	2	3	1	1	3	0	3	0	1	1	1	0	

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目